



QRコードを
読み取って
ご覧ください



令和五年一月一日、新年のご挨拶とともに、元旦会の法要をお勤めさせていただきました。ご講師には谷町九丁目の長願寺ご住職、新發田恵司先生をお迎えして、無事に新年を迎えられたことに感謝しつつ、お聴聞させていただきました。先にご案内をさせていただきたいのですが、法要の中のご法話部分を収録してYouTube「浄覚寺チャ

元旦会 嚴修

じゅくこう

第46号
(通算386号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

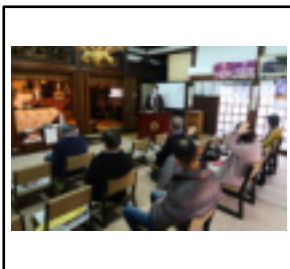
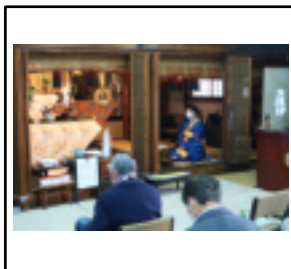
- ・2月15日(水) 10時~11時半
- ・参加費500円
- ・浄覚寺本堂にて

☆ヨガマットの無料レンタルもあります。お友だちをお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

ンネル」に載せております。ぜひご覧いただければと思います。さて、この度のご讃題は回向文と言われる、お勤めの最後に称えられるお言葉でした。「願以此功德、平等施一切、同発菩提心、往生安樂国(願わくはこの功德をもつて、平等に一切に施し、同じく菩提心を発して、安樂国に往生せん)」。一般的に回向とは、自己の善行の結果である功德を他に回し向けるという意味で使われていることが多いなか、中国の善導大師は仏説観無量寿経を註釈した書物にこの「願以此功德…」のご文を記されます。自分

自身の内面をよくよく見つめれば、煩惱の中でしか生きていけないことがわかります。修行をして善行を積み重ねることなどできないと気づかされます。そんな私を見捨てることなく、自分で積み重ねる力ではなく、そのままの私を救い取るためにすでに仕上げてくださったお念仏の功德によって、必ずお浄土に往生するといふ他力のはたらきをもたれた阿弥陀さまがおられることを教えてくださいました。また、「同じく菩提心を発す」とありますが、菩提心もそのまま読めば悟りを求める心となります。けれど浄土真宗では自ら発す心ではなく、阿弥陀さまから与えられた信心のことを言います。他力の菩提心とも言いますが、阿弥陀さまの

救いのはたらきを疑いなく受け入れた心のことなのです。その他力の菩提心(信心)が私を揺さぶり、悟りを求める私へと少しずつお育てくださるのでしよう。元旦会のご法話の中では「愛」と「慈悲」という言葉を用いて菩提心のお心をご説明くださっておられます。ぜひお聴聞ください。



信心すなはち一心なり

一心すなはち金剛心

金剛心は菩提心

この心すなはち他力なり

親鸞聖人「高僧和讃」



御文章に聞く(第40回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

紙)を味わっていききたいと思います。先月号で一般的に仏教では、信者を出家と在家に分けることができるとお

末代無智章(五帖第一通) 末代無智の・在家止住の男女たらんともがらは、こころをひとつにして・阿弥陀仏をふかくたへこまいらせて、さらに余のかたへこころをふらず・一心一向に仏たすけたまえと申さん衆生をば、たとい罪業は深重なりとも・かならず弥陀如来はすくいましますべし、これすなわち・第十八の・念仏往生の誓願のころなり、かくのごとく決定してのうえには・ねてもさめてもいのちのあらんかぎり、称名念仏すべきものなり、あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきしたいと思います。

仏教語辞典



有無

昔、インドでは物質に実態は有るのか無いのかなどという論争があったが、お釈迦さまは中道を説き、どちらも自分の都合に合わせたい見方であるとして、有無から離れた見方を説いた。今は「ジャイアンがのび太に有無も言わせずに命令する」といった欲望むき出しで横暴な使い方になっている。

『気になる仏教語辞典』 著・麻田弘潤 誠文堂新光社 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

伝えました。確かに在家者は出家者に比べて修行や規律の厳格さは軽減されず、だからといって在家は楽だとか、出家より劣っていると考えてしまいうのは早計です。 視点を変えてみれば、出家者は家族やその他の人間関係、社会的制約の外にいる人です。世間のしがらみがなければ、仏道修行は厳しくともそれ以外に思い悩むことないはず。けれど、在家者は家庭を始め、社会の諸問題を抱えて生きねばなりません。その意味では、蓮如上人が「在家止住の男女たらんともがら」と言われた言葉には、悩み多き在家生活の厳しさが込められているのです。だからこそ阿弥陀さまから、在家の生活の中で確かな依りどころを恵まれることによって、尊い仏道となる道が開かれたと味わうのです。

編集後記

今月も「じゅこつ」をお届けいたします。新しい一年が始まり、早くも一ヶ月が過ぎました。今年も色々なことにチャレンジしていきたいと思えます。四月には当山の報恩講とともに親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要をお勤めしたいと思っております。二月十二日のお経の練習会と併せて、ぜひご予約をお願いいたします。 長く続いているコロナ禍ですが、五月に大きな転換点を迎えるようです。少しずつ以前の法要形態に戻していくことを考えております。(釋法道)



三月二十一日(祝) 十四時より 春季彼岸会 法話 朝山大俊先生

行事案内

日時・二月十二日(日) 十四時より 行事・第三回 仏教文化講演会 場所・長原浄覚寺 講師・当山住職 テーマ・『新制 御本典作法』 練習会 (なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

令和五年「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」を機縁として、新たに『御本典作法』というお勤めが制定されました。当山でも四月の報恩講法要に併修して記念法要を厳修し、このお勤めを依用させていただきます。お経本は進呈いたします。ぜひ一緒に練習させていただきます。